

パリ日本文化会館では未来を担う子供たちを対象にいろいろなイベントを開催しています。特に学校が長期休暇に入る時期にそうした事業を集中的に行っています。本号では、復活祭休みを利用して4月下旬から5月初旬にかけてパリ日本文化会館で実施した子ども向け事業と、学校休み期間外でその後も実施した学校グループ受け入れ事業等を、担当者の報告を基にお伝え致します。

1

目次

- 1. 貝合わせワークショップ** (2019年4月25日、26日) 2
折り紙で貝を作り、日本語表現と仏語表現を貝合わせ遊びで組み合わせるワークショップ。
- 2. 粘土でつくる風鈴とお弁当ワークショップ** (4月27日) 3
粘土で花見弁当(5歳以上)と風鈴(7歳以上)をつくるワークショップ。
- 3. ガンプラ・ワークショップ** (5月2日) 4
ガンダムのプラモデルを組み立て、持ち帰れるワークショップ。
- 4. 剣術ワークショップ** (5月3日、4日) 5
フランスとベルギーで古武道のセミナーやワークショップ等の活動をしている在仏武術家松浦真人氏による剣術体験ワークショップ。8~17歳と18歳以上との1日2セッション制。
- 5. 鯉のぼりワークショップ** (5月4日) 6
FabLatKids アソシエーションとの共催によるデジタル工作機材を使用して日仏子ども交流を図る事業。
- 6. いけばなワークショップ** (5月4日) 7
いけばなインターナショナルの会員を講師に迎えた8歳以上の子どもを対象とした生け花のワークショップ。
- 7. クロード・ベルナル校プライベートワークショップ** (5月9日) 8
パリ東北部 19 区にあるクロード・ベルナル小学校の 7~8歳の小学生を受け入れ、折り紙のプライベートアトリエを実施。講師はミシェル・シャルボニエ氏。
- 8. 紙芝居コンクール授賞式と関連イベント** (5月14日~18日) 9~10
DULALA アソシエーションが主宰する紙芝居コンクールの授賞式を同協会との共催・協力により実施したほか、地上階ホールで同コンクール受賞作品の展示や紙芝居公演など関連イベントを実施。
- 9. クロード・ベルナル小学校「大津絵」展鑑賞会** (5月23日) 11
パリ 19 区にあるクロード・ベルナル小学校の 7~8歳の小学生を受け入れ、「大津絵」展鑑賞会を実施。
- 10. フェデラシオン幼稚園「大津絵」展見学と折り紙ワークショップ** 12
6月4日パリ日本文化会館に隣接する幼稚園生を受け入れ、「大津絵」展見学と折り紙ワークショップを実施。
- 11. フランスの地方校の生徒を対象とした「大津絵」展鑑賞会等** 12~13
6月5日にはボルドーのサント・クロティルド・アソンプション高校、6日にはパリの南方 93kmに位置するフェリエール=アン=ガティネ市のピエール=オーギュスト・ルノワール校の小中学生を対象に「大津絵」展鑑賞会と紙芝居ワークショップや茶会等を実施。

① 貝合わせワークショップ

2019年4月25日(木)と26日(金)、貝合わせのワークショップを1日2セッションずつ実施しました。各セッションは10名が定員で、折り紙で貝を作り、日本語表現とそれに対応するフランス語表現を、貝合わせ遊びで組み合わせて遊ぶワークショップです。

同伴者を含め、初日25日の第1セッションには10名、第2セッションには17名が参加、二日目26日の第1セッションには12名、第2セッションには10名が参加し、計49名の参加がありました。

講師による簡単な日本紹介のあと、貝合わせの解説があり、続いて貝合わせゲームで使うフランス語とそれに対応する日本語の10個のフレーズ(例えば Bonjour-こんにちは、A bientôt-またね、Merci-ありがとう、等)を発声しながら学びます。

次に折り紙で貝を2つ作り、割り当てられた日仏語の表現を折り紙貝に貼って貝合わせゲームを楽しみました。フランスの子どもたちが貝合わせゲームを通して簡単な日本語表現を楽しく学べる素晴らしいワークショップとなりました。担当者によると、ワークショップ終了後、子どもたちが「ありがとう」、「さよなら」、「またね」という日本語表現を、早速実践して使っていたことが大変印象深かったということです。



貝合わせワークショップの様 (写真: MCJP)

② 粘土でつくる風鈴とお弁当ワークショップ

2019年4月27日(土)と30日(火)に粘土で花見弁当(5歳以上)と風鈴(7歳以上)をつくるワークショップを開催しました。

初日27日の第1セッションには24名、第2セッションには22名、2日目30日の第1セッションには22名、第2セッションには21名がそれぞれ参加し、総計89名が本ワークショップに参加しました。

初日も2日目も第1セッションは5歳以上対象の花見弁当セッションでしたが、参加者たちは講師の説明を聞きながらお弁当に詰める具を一つ一つ作り、最後に全てを弁当箱に詰め、お弁当包みに包んで出来上がった作品を持ち帰って行きました。

第2セッションは7歳以上対象の風鈴制作セッションでした。最初に風鈴の土台の色とモチーフとなる桜か金魚のどちらかを1つ選んでもらい、参加者それぞれがオリジナルの風鈴を作りました。

両セッションとも和気あいあいとした雰囲気の中で、子どもも大人も共に楽しみながら、一所懸命に作品づくりをしました。完成した作品はどれも可愛らしく、参加者全員非常に満足気な表情をしていたということです。



ワークショップの様相 (写真: MCJP)

③ ガンプラ・ワークショップ

2019年5月2日(木)にはガンダムのプラモデルを組み立てて持ち帰れるワークショップをバンダイ社との共催で実施しました。昨年も実施して評判の良かった事業で、今年で2回目の開催となります。

今回の参加者数は14時からの第1セッションが56名、16時からの第2セッションが52名の合計108名でした。

はじめに講師からガンダムとガンプラに関する説明があり、その後、参加者はRX-78-2のガンダムモデルのプラモデルを組み立てました。

参加者たちはいずれも非常に喜んでおり、早くも次回のワークショップを楽しみにしている様子でした。今後、他の在仏日系玩具、出版企業等との協力も模索していきたいと考えています。



プラモデルを真剣に組み立てる子どもたちと完成形のガンダム (写真: MCJP)

④ 剣術ワークショップ

2019年5月3日(金)と4日(土)にフランスとベルギーで古武道のセミナーやワークショップ等の活動をしている在仏武術家松浦真人氏による剣術体験ワークショップを開催しました。

8~17歳と18歳以上との1日2セッション制で行いました。17歳以下を対象とした初日5月3日(金)の第1セッションには同伴者を含め28名が、18歳以上を対象とした第2セッションには同14名が参加し、2日目5月4日(土)の第1セッションは同13名が、第2セッションには同14名がそれぞれ参加しました。上記のワークショップとは別に、5月3日に学童のプライベートセッションの申し込みがあり、18名が参加しましたので、総参加者数は87名となりました。

1時間半という子どもにとっては比較的長いセッションでしたが、前半は準備運動と身体の使い方やすり足の練習をし、後半に木刀や竹刀をもって剣の構え方や使い方、身のこなし方などを学びました。最初はぎこちない動きをしていた参加者たちも、時間が経つにつれて少しずつコツを覚え、様になっていく様子がありました。参加者たちからは「面白い、勉強になった」という感想や、合気道や剣道など他の武道の体験ワークショップも実施してほしいとの希望が寄せられました。

筆者も一部見学させていただきましたが、松浦講師が打ち込み時に身体を相手に寄せたり、すり抜けたりする時の動きの速さに感心させられました。



ワークショップの様様 (写真: MCJP)

⑤ 鯉のぼりワークショップ

季節にあった日本の伝統文化行事はフランスでも人気があります。

中でも鯉のぼりワークショップは毎年大人気です。共催者は年ごとに異なってきましたが、今年は FabLatKids アソシエーションとの共催で、デジタル工作機材を使用して日仏の子どもたちが交流するというワークショップを 2019 年 5 月 4 日 (土) に実施しました。定員限度 30 名のところ、悪天候のため 6 名が欠席、当日は児童 24 名、同伴保護者 14 名の計 38 名の参加となりました。

まず講師から鯉のぼりとワークショップに関して大まかな説明があり、その後、子どもたちには思い思いの絵を描いてもらいます。その絵は、日本にデータ送信されて、加工処理が行われ、次回日本で実施する同様のワークショップのために型紙として使われます。また、この加工処理されたデータはカッティングプロッターでシールにし、参加した子どもたちに持ち帰ってもらいました。

次に、日本で実施された前回のワークショップで日本の子どもたちが描いた絵の加工型紙を使って鯉のぼり制作を行いました。鯉のぼりの骨部分になる木製の加工板をポスカで色を付け、布製鯉のぼりにも型紙を使って色づけを行い、完成します。

担当者によれば、今回 FabLatKids ネットワークが世界数十か所でほぼ同時に鯉のぼりワークショップを開催していたため、日本だけでなく、ワークショップ中に第三国の子どもたちともスカイプで交流を図りました。最後に記念写真も撮影し、参加者たちは終始和気あいあいとした明るく楽しい雰囲気の中で制作に励んだそうです。



鯉のぼりワークショップの様 (写真: MCJP)

⑥ いけばなワークショップ

いけばなインターナショナルパリ支部の会員3名を講師に迎え、8歳以上の子どもを対象とした生け花のワークショップを2019年5月4日(土)に実施しました。各セッション15名の定員で、2セッション実施しました。参加したのは同伴者を含め第1セッション16名、第2セッション17名の計33名でした。

最初に講師から生け花の基本的な説明と、ワークショップで体験する新風体についての解説があり、その後、各参加者が実際にいけばなを活けました。

使用した花材と花器、そして剣山の代りにオアシスを配布し、自宅でもまた再現できるよう持ち帰ってもらいました。

参加者は圧倒的に女性・女子の参加が目立ち、親子で楽しく生け花を活けたり、お互いの作品を比較して意見を交わしたりしていました。



熱心に講師の説明を聞く参加者たち (写真: MCJP)

⑦ クロード・ベルナル校プライベートワークショップ

2019年5月9日(木)、パリ東北部19区にあるクロード・ベルナル小学校の7歳(20名)と8歳(25名)の小学生を受け入れ、折り紙のプライベートワークショップを実施しました。クロード・ベルナル小学校は昨秋ジャポニスム2018の主要展覧会の一つとしてパリ日本文化会館で開催した「縄文」展の際にグループで来館した学校です。その際の受け入れに大変満足いただけたことから、今回プライベートワークショップの依頼を頂きました。ジャポニスム2018のレガシーの一つと言えます。

今回は日本文化を実際に生徒たちに体験させたいとの要望があり、折り紙プライベートワークショップを12時~14時で実施しました。折り紙講師は当館もお世話になっているミシエル・シャルボニエ先生が務め、生徒22名、教員1名のクラスと生徒24名、教員・アシスタント3名のクラスを設け、計50名を迎え入れました。

折り紙ワークショップはクラス毎に実施し、待機クラスはジャポニスム2018の旧情報センター内で昼食を取り、絵本や漫画を読んだり、鯉のぼりを作ったりしてワークショップの時間を待ちました。

最初のクラスは魚と鳥を、次のクラスはコップと蝶を折り紙で折りました。ぴったりと端と端を合わせて紙を折れず苦労していた生徒も多数見受けられましたが、全員楽しく折り紙を体験していました。同校は後述のように5月23日にも「大津絵」展見学のために再度来館しました。



講師の質問に手を挙げて応えようとする生徒たち (写真: MCJP)

⑧ 紙芝居コンクール授賞式と関連イベント

フランスの教育省が2016年から毎年設けているSemaine des langues vivantes（仮訳「生きた言語週間」）に合わせ、2019年5月16日（木）に多言語・多文化教育を推進しているDULALA アソシエーションが主宰する紙芝居コンクールの授賞式を同協会との共催によりパリ日本文化会館大ホールで実施しました。これまでは、ユネスコやゲテ・リリックで開催したとのこと。

イルドフランス地方の学校を中心に参加しましたが、リヨンの中学校の参加もありました。幼稚園児から中学生までの児童184名と随行者40名の計224名の来館となりました。

授賞式オープニング公演として、パリ在住の浅井宏美氏が紙芝居「オコゼと山の神」公演を行い、その後、3-6歳、6-10歳、10-15歳、そしてお気に入り部門の計4部門の受賞グループと作品の発表が行われました。受賞作品の名前が挙げられるたびに会場に歓喜の声が上がりました。最後に受賞参加グループ全員が登壇し、記念撮影を行いました。その後、書道、紙遊び等のワークショップ、地上階展示見学、おやつレセプション等が行われました。おやつレセプションは、アソシエーションが準備したフランスの菓子に加え、当館からどら焼き、せんべい、抹茶クッキー等の日本の菓子を提供し、和菓子を味わってもらいました。

本事業は、紙芝居という日本発祥の文化を通じて多くの子どもたちに当館を知ってもらう機会であるだけでなく、日仏2カ国を超え、文化・言語の多様性を子どもたちに学んでもらう非常に教育的で有意義な事業でした。



事業の様様（写真：MCJP）

また、前述の紙芝居コンクール授賞式（5月16日（木））を実施する機会に、同コンクール受賞作品を2019年5月14日（火）～18日（土）の一週間にわたり地上階ホールで展示するとともに、5月18日（土）には紙芝居公演もレセプションホールで実施しました。

地上階展示に関しては、同上アソシエーションが作成した子ども向け見学用冊子を配布し、子どもたちがクイズに答えながら楽しく見てもらえるように工夫しました。

紙芝居公演に関しては2部構成にし、第1部はアソシエーションのメンバーが過去及び今年度の受賞作品を1作品ずつ披露した後、絵葉書に絵を描いたり、ポストイットにいろいろな言語で「こんにちは」に当たる言葉を書いてもらい壁に貼ったり、多言語・多文化に沿ったテーマのセッションを行いました。第2部は紙芝居アーティスト、築野友衣子氏と浅井宏美氏による公演を行いました。築野氏はご自身のオリジナル3小作品を、浅井氏は「一寸法師」1作品を披露しました。現代作品と古典作品の両面を見せることができ、また、お二人とも日本語の擬音語や表現などを織り交ぜていたことから、観客に日本語に触れてもらえる機会にもなりました。

参加者は、1部55名、2部71名の計126名となり、大人と子供の人数のバランスも程良い加減となりました。

担当者によれば、特に浅井氏の公演に関しては、彼女がもともと舞台俳優であるため、会場全体の注目度がぐっと高まり、緊張感のある静けさの中、大人も子どもも皆が惹きつけられたように見入っていたということです。



アーティスト3名と紙芝居公演に見入る参加者たち（写真：MCJP）

◎ クロード・ベルナル小学校「大津絵」展鑑賞会

5月9日のプライベート折り紙ワークショップに引き続き、パリ東北部19区にあるクロード・ベルナル小学校の7歳と8歳の小学生を受け入れ、5月23日(木)に「大津絵」展鑑賞会を実施しました。本鑑賞会には生徒21名と随行者3名の24名クラスと子ども21名と随行者2名の23名クラスの計47名が参加しました。

前回と同様、鑑賞会と昼食会を2グループで交互に実施しました。昼食はジャポニスム2018の旧情報センター内で取ってもらいました。今回は展覧会ガイドを広報担当職員に担当してもらい、日本の歴史、地理、大津絵に描かれている世界や対象人物・動物、等に関する解説を分かりやすく行ってもらいました。作品見学中は熱心に解説を聞く生徒がいる一方で、じっとしてられない児童も何人か見受けられたものの、最後の大津絵制作工程ビデオに関しては全員静かに、また、熱心に映像を見ていました。今回は自由見学ではなく解説付き見学であったため、生徒たちの大津絵展に対する知識が深まったのではないかと期待されます。今回の受け入れにも随行者の先生方は大変満足して下さり、次回の来館・展覧会見学の期待が膨らんだようでした。



「大津絵」展を見学するベルナル小学校の生徒たち (写真: MCJP)

⑩ フェデラシオン幼稚園「大津絵」展見学と折り紙ワークショップ

2019年6月4日(火)には当館すぐ横に位置するフェデラシオン幼稚園の年少と年長混合クラス児童23名と同伴6名の計29名が来館し、2グループに分れ、「大津絵」展見学とコレリー・ボノー氏を講師に迎え折り紙ワークショップを行いました。

校長及び教員の日本文化への関心が高く、また、隣人という好条件もあり、今後の中長期的な関係構築が期待されます。



フェデラシオン幼稚園「大津絵」展見学と折り紙ワークショップ (写真: MCJP)

⑪ フランスの地方校の生徒を対象とした「大津絵」展鑑賞会等

6月に入ってから授業の一環としての当館訪問が続きました。6月5日(水)午後には、修学旅行でパリを訪れたボルドーのサント・クロティルド・アソンプション高校日本語クラスの生徒と随伴教員計21名を受け入れ、「大津絵」展鑑賞会と裏千家による茶道のデモンストレーションを行いました。



サント・クロティルド・アソンプション高校の生徒を対象とした「大津絵」展鑑賞会と茶道デモンストレーション (写真: MCJP)

また、翌6日(木)には、パリの南方93kmに位置するフェリエール=アン=ガティネ市にあるピエール=オーギュスト・ルノワール校の小・中学生混合の児童39名、同伴者4名、計43名が当館を訪問し、「大津絵」展ガイド付観賞会と紙芝居ワークショップを2グループに分かれて体験してもらいました。

大津絵展のガイドは当館広報部職員が担当し、子ども向け見学冊子を使いながら解説を行いました。子どもたちは熱心に解説を聞き、多くの質問を寄せていました。

一方、紙芝居ワークショップは浅井宏美氏が担当しました。絵が得手・不得手な生徒、話を作ることが好きな生徒、発表が苦手な生徒等、様々な子どもたちが自分たちの長所を活かし、また、短所を互いに補いながら、共同制作を行いました。教育面でも非常に興味深い事業であったと同伴教員は非常に喜んでいました。



ピエール=オーギュスト・ルノワール校の生徒を対象とした「大津絵」展観賞会と紙芝居ワークショップ (写真: MCJP)

このように地方の学校を当館に受け入れることは今後の日本文化発信の上でも大変有意義なことであると思われます。

なお、こうした学校によるグループ鑑賞会を含め、「大津絵」展の子どもグループ鑑賞者数は6月8日(土)までの会期中に総計227名に達しました。

以上